

愛宕山城跡

桑高同窓会長 西羽 晃

桑名高校の南に諸戸徳成邸、長禅寺、新しい住宅地が続いています。私が現在住んでいるところと地続きです。この辺りは愛宕山と称する丘陵地帯です。桑名の市街地を見下ろす景勝の地です。元は緑のベルトラインでしたが、開発によって緑も次第に失われてきました。

愛宕山には中世末に城があったとの言い伝えがあり、愛宕山城跡と言われます。住宅地として開発されるにともない、2005(平成17)年から06年にかけて、発掘調査された結果、縄文時代早期前半の穴(土坑)と深鉢の破片が出て来ました。桑名の市街地に近い場所での縄文遺跡は驚くべき発見です。遺物は少ないので、詳細は不明ですが、9000年以上前に人々が居たようです。

次に古墳時代の墓が見つかり、中から骨の破片も見つかりました。須恵器・土師器などの遺物も出て来ました。詳しいことは判りませんが、日当たりの良い高台で、地下水も豊富な土地ですから、付近に人々が暮らしていただろうと推測されます。いずれにしても後に愛宕山城が築かれた時に、大きく破壊されています。

中世に集落があったとも考えられますが、中世末に城があったことは確かです。文献によりますと、付近は矢田北辺城とも呼ばれ、矢田市郎左衛門が居ました。隣接する走井山の矢田城には矢田半右衛門俊元が居ました。矢田北辺城は現在は愛宕山城と呼ばれています。二つの城は同族と思われる矢田氏の城で、本城と出城の関係だったかもしれません。



愛宕山城跡に建つ住宅(下部は昭和、上部は最近の建設)

愛宕山城は南北に長い廓で、北と西に土塁(土手)が巡り、空堀もありました。東と南は崖になっています。諸戸徳成邸の調査でも土塁が巡っている郭が確認されており、諸戸徳成邸は愛宕山城に付属する郭かと思われます。付近は上之越(じょうのこし)という小字名もあ

ります。上之越とは「城の腰（じょうのこし）」であり、城の中腹だと考えられます。桑名高校も上之越の一部であり、前身である桑名中学校創設工事の際に、織田信長のころの古刀と土器が出土しており、愛宕山城に関連する一部であったかも知れません。

愛宕山城跡からは瀬戸美濃、常滑や外国産の陶磁器類が見られます。これらの遺物から 15 世紀の末ころから 16 世紀の末ころまで城として使われたようです。ハマグリ、シジミ、マガキなど食べた貝の殻も見つかっています。

近世の地誌によりますと、矢田城はこの地方の中心的な城で、鈴鹿山脈から伊勢湾一帯が一望に見える戦略的に重要な拠点でした。1558～70 年（永禄年間）に織田信長の軍勢によって攻め滅ぼされました。長島一向一揆攻めの前線基地として、滝川一益が城を頑丈に造り直したとされています。1574（天正 2）年に長島一向一揆が平定されると滝川一益は長島へ移り、矢田城は滝川の部下が守護しました。1592～95 年（文禄年間）に桑名城が築かれて、矢田城は廃城となったようです。隣接する愛宕山城も同じ運命をたどったと思われます。発掘で出土した遺物からも時期が裏付けられます。

近世からの愛宕山については次回に書きます。